

2. 借入がある世帯とない世帯の間に大きなゆとりの差

2 - 2 妻と夫のためのお金を抑え、子どものためにまわす

調査対象世帯は子育てにお金がかかる時期にあり、1997年から2002年にかけて、各世帯の1ヶ月の「子ども費」(子どものための支出・貯蓄)は1~2万円増加している(図表6)。これは主に、子ども数の増加や子どもの成長に伴う支出・貯蓄の増加による。「借入なし世帯」の子ども費は5年間に約2万円増加し6万4600円、「借入継続世帯」と「その他の世帯」の子ども費はそれぞれ9000円と1万5000円ずつ増加し、5万3900円と5万6300円である。

「借入継続世帯」は、前項でもみたように夫妻収入の上昇率が低いため、子ども費が増加すると、それをどう賄うかが問題になる。図表6をみると、このタイプの世帯では、他のタイプにはみられない「夫費」(夫のための支出・貯蓄)の減少がみられ、1997年には4万円だったのが、2002年には約3000円低下して3万6900円となっている。つまり、家計のなかで、夫費を削って増加する子ども費にまわしていることがわかる。

また、「妻費」(妻のための支出・貯蓄)をみると、時期によらず、どのタイプの世帯でも夫費の半分以下と非常に低くなっており、特に少ない「借入継続世帯」の場合では、2002年で1万6500円にとどまっている。

図表6 借入タイプ別 子ども費・夫費・妻費の変化

